

6. ペガサス利用児を取り巻く環境 ～ネットワークを活かした支援を目指して～

自閉症サポートセンター ペガサス

課題のひとつである中高生の過ごしをテーマに、ペガサスでのシナジー効果を意識した同法人内他事業所と連携を図った活動プログラムの紹介と効果を考え、卒業後の進路選択や過ごしに繋がる大きな役割を担っている私達、放課後等デイサービス。青葉会ならではの魅力をアピールしていく。

中高生の過ごし、社会福祉法人青葉会、シナジー効果、保護者との信頼関係

1. はじめに

今回、中高生の過ごしをテーマに研究を進めていく上で2つの課題が出て来た。現状固定契約者に加えて、緊急対応も入れると、13～15人利用している日が多くなっている。その中で中高生の割合が全体の67.8%を占めている。一つ目の課題は、小学生から高校生と一緒に過ごしている為、人数の多さや個々の過去の時間と空間の確保が難しい。二つ目は、中高生の過ごしをより充実する事で、卒業後の進路選択や過ごしに繋がる大きな役割を担っている。今回は、二つ目の課題を中心に発表する。

30年度 固定契約者数 (11月現在)

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
14名	20名 (内ジュニア契約者11名)		20名 (内ジュニア契約者9名)	12名
小学生 6名	小学生 8名		小学生 5名	小学生 3名
中学生 2名	中学生 2名		中学生 3名	中学生 1名
高校生 6名	高校生 10名		高校生 12名	高校生 8名

2. 背景

社会福祉法人になってから、卒業後の進路を意識して中高生の契約が増えている。「少しでも早い時期から青葉会に繋がっておいた方がいい」という保護者の思いは、だんだんと低年齢化してきており、今では小学生の保護者から聞かれるよう

になってきた。また、進路だけではなくご家庭の緊急時の為に相談や短期入所の事業を行っている“大きな法人”と繋がっておくと“安心”とのニーズが強くあるようだ。

3. 研究方法 (ねらい)

ペガサスでは、シナジー効果を意識した同法人内他事業所との連携を図った活動プログラムを実施している。職員間で30個ワークを行い、シナジー効果を意識した活動のメリット・デメリットを上げ、ニーズの掘り下げを行い考察していく。

4. ペガサスの活動

4-1 畑活動

こだまの畑で季節に応じた野菜の苗植え、収穫を行い「じゃがいもの味噌汁パーティ」「さつまいもでハロウィンのおやつ作り、月のおやつで「スイートポテト作り」等々ペガサスの活動のテーマにしてアピールに繋げている。



4-2 ドラムサークル

あおば作業所職員ファシリテーターの矢板さんによるドラムサークル活動。好きなリズムでたいこを叩きながらリーダーの動きに合わせていつのまにかひとつの音になっていく。

「せ〜の！」で掛け声を皆で合わせて終わるところが盛り上がるポイント。夕涼み会では恒例行事となる人気のイベントとなっている。



4-3 ダンス教室

第2こだま職員、龍興さんによるダンス教室は、メニューを選んで参加してくれる活動の一つになっている。好きな曲のリクエストコーナーは大人気。今年度は、ふれあいフェスタでステージデビューをし、青葉祭は一年間の集大成、発表会というイベントにして保護者の方々に披露した。



4-4 WU 体育館活動



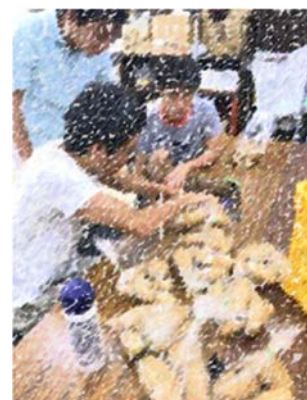
毎週水曜日にWITH US 体育館を借りての運動遊び中心の活動をしている。お迎えの保護者が法人本部のあるところを出入りする事で青葉会の雰囲気を感じ

てくださる事こそ卒業後の進路の選択肢に入らなにかの大切なポイントではないかと感じている。また、職員同志他事業所の方と挨拶を交わす姿を見る事や、子ども達とも挨拶をかわせる仲になってきた事は嬉しい。

4-5 お仕事体験（高校生限定日）

長期休みの企画として、法人内の事業所でのお仕事体験をしている。今年度はどこで体験をしたか保護者に伺い希望事業所で行った。

保護者には連絡帳、送迎時、お便り等を通して様子を伝え普段の職員との関わり等も交えて報告する事で安心感に繋がり、就労の事業所紹介の役割にもなっている。回を重ね色々な所で体験する事によって、法人内外での就労先を選ぶ材料となっている。



4-6 短期入所お泊り体験（ペガサスデイ）

保護者からのニーズが一番ある企画。短期入所への興味はかなりあるが、泊まりとなると初めての場所や初めての大人に子どもだけではなく保護者も緊張する。短期入所利用のきっかけ作りをペガサスの慣れた大人と友達と体験する。この頃は、小学生の保護者からのペガサスデイに関しての問い合わせも多くなってきている。



5. 活動のメリット・デメリット

5-1 活動のメリット

5-1-1 畑活動

- ・参加した子どもが自分で収穫した野菜を使って調理をしてほしいと母親にお願いをした。
→母とのコミュニケーションの幅が広がった。
- ・ハウス以外で自然と触れ合って収穫の楽しみができる。

5-1-2・3 ダンス教室・ドラムサークル

- ・音楽がかかると体を動かし楽しむ姿が見られた。
- ・音楽やダンスに興味を持ってきて、ハウスの活動の中でCDデッキで音楽を聞いて楽しんでいる子が増えペガサス内でのブームとなっている。
- ・朝の会や始まりの会での体操を積極的に参加する子、リーダーをやりたい子が増えてきた。
- ・本格的なたいこやダンスに触れる事でペガサスの生活の中で積極性が芽生えてきた。
- ・音楽の聴く曲が増えてきた。音楽を流しギターを弾く、ピアノを弾く等、本人の活動の幅が広がってきた。

5-1-4 お仕事体験

- ・ハウスの中では見られない子ども達の持っている強みが見えた。
- ・実習に選んでもらった時に知っている人(職員)がいる事が何よりの“安心”に繋がる。
- ・ペガサス以外の他事業所の大人や利用者さんとの交流が出来る。
- ・高校生が将来に向けて体験できると同時に、保護者も今後の見通しが持てる。
- ・卒業してからも、本人も保護者も安心して過ごせる・相談出来る慣れた職員がいる。
- ・不登校児もペガサスに来ている事で将来に向けての体験が出来、情報を知る事が出来る。
- ・横のつながりがある。
- ・成人事業所の職員と仲良くなれる！
- ・体験、実習が終わると「僕も社会人！」と本人が意識する姿が見られた。
- ・活動中、畑や実習でお世話になった成人事業所の職員と逢い声を掛けてもらうと子ども達も嬉しそうにしている。またその姿を保護者へ報告することで安心感に繋がっている。

5-1-5 短期入所お泊り体験

- ・本人・保護者にとっても貴重な体験。
- ・家では食べない、やらない事が出来た。
- ・保護者が“泊まれた！”と言う喜びと経験が出来る。

5-2 活動のデメリット

- ・土曜日の一活動での企画がメインの為、他事業所との勤務の調整が難しい。
- ・ペガサスとの活動時間と他事業所の活動時間が違うので職員の都合が合わせにくい。
- ・教室を行う活動の日に保護者の都合で利用を希望してくる子もいて本人のペースに合っているか？

6. 新しい取り組み

- 課題にある12. 5人を超えない工夫として、
- ①フリーの申し込みや緊急の申し込みがあった時に対応していく。
 - ②ハウスでの過ごし方の工夫。
 - ③小学生と中高生との過ごしのお互いの充実を図る。

その為、ジュニアペガサスハウスの1階部分を利用して火曜日・木曜日を小学生と中高生と年齢別に分かれて過ごす事を開始、実践している。離れて過ごす事で、邪魔をされずせわしなさが無い分落ち着いて過ごせることで「のんびり」「チャレンジ!」「仲間との関わり」が充実してきた。自分の時間の確保が出来る事、意欲的に自分達でおやつの準備や片付け等をやり積極的に活動に参加している様子が見えてきた。

7. 考察

ペガサスの活動の“売り”、セールスポイントを青葉会のネットワークを活かした支援、シナジー効果を意識しての活動を展開していく事で、「青葉会に興味をもってもらえた」「広報誌(青葉の風)等で他事業所の職員を探している」「他事業所の職員にも名前を呼んでもらった」「将来の見通しが持てるようになってきた」等と反響があり大きなシナジー効果を発揮しているのではないかと考えられる。

8. 課題

法人内の職員の特技・強みを生かした活動を企画し、ペガサス活動のイベントとして企画することでの関わりが進路の選択肢の一つになって行く事に繋がる一方で、青葉会が希望者全員を受け入れる事は難しい。お仕事体験の活動に取り組む事やシナジー効果を意識した取り組みで法人内の事業所・職員の雰囲気を知る事は、法人外の事業所と比較して選択していく事が出来るという事。引き続き企画し、事業所の紹介や青葉会について知って頂く事は、ペガサスの大事な役割と感じ背筋の伸びる思いで毎回取り組んでいる。アンケートより青葉会全体の説明会等に参加出来たら嬉しいとの意見もあり、作業所説明会の周知に力を入れ、ペガサス職員の作業所に対する知識の向上と、会議等で法人の動きを把握していき、保護者からの情報を共有していく等の工夫がより必要だと感じている。

9. 今後の展開

ペガサスの大きな2つの課題に向き合う事で、どちらにも共通している「中高生の過ごし方の工夫と充実」が大切だという事を改めて実感した。

小学生と中高生を分けて過ごして行く事で活動内容の充実と、一人一人への丁寧な関わりを今以上に持てる事、それぞれの定員を10名に近づけて行く事で小学生の獲得への課題への取り組みも出来るのではないかと考える。

また、保護者と利用児が卒業後の進路を意識していく時期の中学・高校生とのお付き合いをしていく現場にいる私達。ペガサスの活動の取り組み・保護者への対応、信頼関係をどれだけ作って行けるか？に、より青葉会への期待と興味をもってもらえるよう信頼を繋げていく重要な役割を担っている事業所であり、責任の重さと大切さをあらためて感じている。

青葉会に繋げよう…繋がりますように…の取り組みは、私達の寄り添う姿勢の基本になっている。

常にパワフル&チャレンジングに取り組み“愛され続けるペガサス”から“愛する青葉会へ”と繋がるよう努力し続けていきたい。